



コンドロイチンに硫酸基を転移する酵素（C4ST-1, chondroitin 4-O-sulfotransferase-1）は、その酵素活性に自身のアスパラギン結合型糖鎖が必須な糖タンパク質です。

この研究は、アスパラギン結合型糖鎖を作ることができない大腸菌で、トリガーファクターという大腸菌のシャペロンを融合させることにより、**高い酵素活性を保持したC4ST-1を低コストに大量調整することに成功した**というものです。これにより、医薬品やサプリメントに配合されているコンドロイチン硫酸の工業的大量生産に、また一歩近づいたこととなります。